

崇ぎ連峰 薬師への挑戦



おもしろい
大学

富山大学
University of Toyama

2027

薬学部

School of Pharmacy and
Pharmaceutical Sciences

学部案内

薬学科

創薬科学科

崇^き連峰 薬師への挑戦

富山大学薬学部では
高度な化学、生物学、物理学、そしてヒューマニズムを学び
「くすりのスペシャリスト」を育てます

「病に苦しむ人に新薬を届けたい」

その情熱を胸に、創薬研究者は日々研究に励んでいます。

「病の苦しみを和らげてあげたい」

その思いを胸に、薬剤師は薬を管理・調剤し、お渡ししています。

「くすりのスペシャリスト」として かけがえのない「いのち」を守るために。





「くすり」と「いのち」の架け橋

生命現象の謎に迫り
病の根源を探究する

くすりを知る

くすりを単に化学物質として理解するのではなく
「いのち」との関わりの中で、くすりの本質を学びます。

くすりを創る

くすりを飲む人、使う人の気持ちを考え、さまざまな知識や情報をもとに
的確にニーズをとらえ、最良の医薬品創成について学びます。

くすりを使う

くすりに関して医師に助言し、医師とともに処方を考え、
責任を持って患者さんに適切に説明できるよう正しい知識を学びます。



伝統から未来へ！「くすりの富山」の薬学教育

富山にしかない「3つの融合」が、

創造性に富み、時代の先端を歩む富山流「くすりのスペシャリスト」を育みます。

富山流くすりのスペシャリスト

医と薬の融合

富山医科薬科大学時代から続く
我が国随一の医学部と薬学部の
強い連携で、
生きた薬学を学びます。

伝統と最先端の融合

「富山の売薬さん」以来300年以上の
「くすり」の文化が根付く街富山で
最先端の薬学を学びます。

東洋と西洋の知の融合

我が国唯一の和漢医薬学総合研究所
との連携で東西医薬学の融合による
新しい医療学体系を学びます。

薬都とやま

— 300年以上の歴史 —

富山に薬業が発展したのは、富山藩第2代藩主・前田正甫（まさとし）公が富山の売薬の基を築いたことが始まりです。

「富山市史」（昭和35年）によると、正甫公は天和3年（1683年）に備前岡山の医師・万代常閑から秘伝薬である反魂丹の製法を伝授されました。元禄3年（1690年）に、江戸城内で福島三春の城主・秋田河内守が突然の腹痛に苦しんでいた時に、所持していた反魂丹で救い、その場に居合わせた諸大名がその効き目に驚き、反魂丹の行商を懇請したといわれます。これをきっかけに越中富山に反魂丹を中

薬袋「本方反魂丹」(※1)



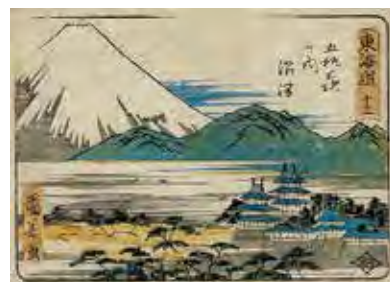
心とした薬業が進行し、富山売薬が発展してきたと伝えられています。富山売薬は、先用後利（先に薬を客に預け、使った分の代金を後でもらう）という独特の商法により、全国に広まりました。また、当時の薬はほとんどが和

漢薬であり、その収集・分類や薬用に関する学問は本草学といいます。幕府は日本での和漢薬の生産が少ないので、これの国産化を目指し、奨励しました。富山藩第10代藩主・前田利保（としやす）公は、まれにみる本草学者であり、「本草通串」94巻を著し、この分野の研究において大きな礎を作り上げ、富山の薬業の発展に貢献しました。

明治維新となり諸制度が改革され、医学は和漢医薬からドイツ医学へと変革していきました。明治19年（1886年）の学制大改革によって、東京帝国大学医学部薬学科が誕生したのに応じて、全国的に薬学校設立の動きが盛んとなりました。富山においても、時代の流れにより西洋薬を用いる技術の必要から薬学士の養成が急務として浮上り、薬学校の設立が望まれ、明



富山駅前「売薬さん像」



売薬さんがおみやげとして客に配った売薬版画(※2)

治26年（1893年）に共立富山薬学校が設立されました。その後、官立富山薬学専門学校、（旧）富山大学薬学部、富山医科薬科大学の設置等を経て、2006年に3大学（富山大学、富山医科薬科大学、高岡短期大学）の再編により現在の富山大学薬学部となりました。

現在の富山大学薬学部



※1、※2の写真は富山市売薬資料館所蔵



富山は、300 年以上におよぶ薬の歴史を有しており、製薬系企業をはじめとした薬産業の集積地で、「薬都」とよばれています。富山大学薬学部は、そのような伝統ある土地で唯一の薬学部であり、薬のプロフェッショナルである「薬師」を育成しています。

本学薬学部のスローガンは、「崇き連峰 薬師への挑戦」です。富山県には、高い立山連峰がそびえ立ち、そこには人の挑戦心をかき立てる崇高さがあります。そして連峰の南側には薬師岳があり、まさに薬学を学び「薬師」を目指すための目標であるかのようです。「崇き連峰」には薬学を学んでいく上での数多くの難題の意味を込めており、「薬師」に到達するためのチャレンジを、このスローガンは表しています。

富山大学薬学部には、6 年制の薬学科と、4 年制の創薬科学科の2 学科があります。薬学科は、薬を知り適正使用する薬剤師の育成を目的とし、主に病院や薬局、薬事行政機関などで活躍することができます。そして創薬科学科は、薬を知り新薬を創出する創薬研究者の育成を目的とし、主に製薬企業や化学メーカーなどの研究者として活躍できます。いずれも、人の健康に貢献する薬のプロフェッショナルであり、しっかりとした医療人マインドと研究力を有する人材養成に重きを置いています。

皆さんも、歴史ある「くすりの富山」で、薬師を目指しませんか？ 本学薬学部では、薬を学び薬剤師や創薬研究者として活躍する意欲がある方々を、いつでも歓迎しています。皆様とお会いできることを、心より楽しみにしています。

沿革

1893 (明治26) 年	8月3日	共立富山薬学校が設立。
1897 (明治30) 年	11月1日	市立移管。富山市立富山薬学校に。
1900 (明治33) 年	5月2日	富山県富山市立富山薬業学校に改称。
1906 (明治39) 年	12月14日	県立移管決定。富山県立薬業学校に。
1909 (明治42) 年	7月17日	全国で初の公立薬学専門学校に昇格。富山県立薬学専門学校と称することに。
1910 (明治43) 年	4月1日	富山県立薬学専門学校が開校。 1
1920 (大正9) 年	12月1日	薬学専門学校が官立に。官立富山薬学専門学校となる。 2
1945 (昭和20) 年	8月2日	第二次世界大戦による戦火で校舎が消失。
1947 (昭和22) 年	4月15日	奥田 (現・富山市奥田町) に実習室三棟などが竣工。戦災より復興する。 3
1949 (昭和24) 年	5月31日	富山大学薬学部設立。当時の、富山薬学専門学校、富山高等学校、富山師範学校、富山青年師範学校、高岡工業専門学校の5つの県内の学校が再編し、富山大学となった。
1963 (昭和38) 年	4月1日	薬学部附属和漢薬研究施設を新設。
1975 (昭和50) 年	10月1日	富山医科薬科大学が設置。一県一医科大学構想のもと、医学部と薬学部からなる国立大学で唯一の医科薬科大学が誕生した (現在の杉谷キャンパス)。 4
2005 (平成17) 年	10月1日	国立大学法人富山大学 (新・富山大学) 薬学部設置。当時、県内にあった3大学 (富山医科薬科大学、富山大学、高岡短期大学) の再編により新しい富山大学が誕生。 5
2006 (平成18) 年	4月1日	薬学部を改組、創薬科学科 (4 年制) と薬学科 (6 年制) を設置。薬学研究科が、医学薬学教育部と医学薬学研究部に。医学薬学教育部には、創薬科学科卒業生のための博士前期課程 (2 年制)、博士後期課程 (3 年制)、薬学科卒業生のための博士課程 (4 年制) を設置。
2022 (令和4) 年	4月1日	大学院 (修士課程) を改組。医・薬・看護が密接に連携した総合医薬学研究科と理・工と連携した医薬理工学環を設置。



令和4年度、 富山大学薬学部は 新しく生まれ変わりました

令和4年度から富山大学薬学部では、
入学定員、入試制度、およびカリキュ
ラムの改革を行いました。

創薬科学科では、高度な薬学研究に
携わる人材の育成をより一層促進し
ます。

薬学科では、医療機関や製薬企業で
活躍できる先駆的薬剤師や、大学等
の研究機関で高度な薬学研究に携
わる幅広い人材を育成します。

I 富山大学薬学部が目指す人材像

社会的リーダーとして
薬学関連分野の第一線で活躍できる人材

創薬科学科

- 大学等の研究機関や製薬企業において、新薬開発に携わることができる「医薬密接連携型」の創薬研究者
- 先端創薬学、和漢医薬学、脳機能科学に関する専門的知識と技術を兼ね備えた創薬研究者
- 世界の最先端薬学研究に関わることができる創薬研究者
- 大学院修士課程（2年制）に進学後、さらに博士課程（3年制）へ進学し、高度な薬科学研究に挑む先端創薬研究者

薬学科

- 医療機関において、臨床に係る実践的な研究力を身に付け、チーム医療を推進できる「医薬密接連携型」の高度臨床薬剤師
- 製薬企業において、研究開発に携わりつつ、製造管理者や管理薬剤師として活躍できる先駆的薬剤師
- 薬事行政や衛生行政等に携わる公務員薬剤師
- 大学院博士課程（4年制）へ進学し、高度な薬学研究に挑む医療薬学研究者

II 入学定員の変更

令和4年度以降入学定員

創薬科学科
50名 → 35名

薬学科
55名 → 70名

III 入学者選抜方法の変更

令和6年度入学生から、薬学科について研究者養成枠と地域枠の二つの総合型選抜を実施します。研究者養成枠では、学部で薬剤師資格を、大学院で博士（薬学）の学位を取得して、社会的リーダーとして活躍できる薬学研究者を志す学生を受け入れています。地域枠では、富山県内高校等卒業生を対象として、富山県の地域医療および製薬産業に貢献したいという強い意欲を持った学生を選抜します。

入学者選抜（募集人員）

	一般		学校 推薦型	総合型		計
	前期日程	後期日程		研究者養成枠	地域枠	
創薬科学科	29	3	3			35
薬学科	35	5	10	10	10	70

※詳細は、学生募集要項でご確認ください。

Ⅳ 学生の進学・就職支援の拡充

- 大学院博士課程進学者への金銭的支援、修了後の就職支援
- 富山県内就職希望者への就職・奨学金サポート

Ⅴ カリキュラムの更なる充実

創薬科学科

- 薬都とやまが誇る富山県内製薬企業等との連携教育の充実
- 3コースの設置による高度な専門教育の実施（2年次後期から希望のコースに分属）
先端創薬学専門コース：
先端創薬学演習や県内製薬企業のインターンシップを通じて、実践的な創薬を学ぶ
和漢医薬学専門コース：
和漢医薬学演習や実習、講義を通じて、和漢薬を含めた広範な東西医療分野で活躍するための専門知識を学ぶ
脳機能科学専門コース：
医学部教員の講義など、分野横断的な脳機能科学の専門知識を学ぶ
- 研究室配属の早期化
3年次前期からの研究室配属により、早期から先端的研究に触れ、研究基礎力の向上を図る

薬学科

- 富山県内病院や製薬企業等との連携教育の充実
- 医療データサイエンス教育の充実
ITやAIを活用し、医療ビッグデータを適切に取り扱い、有効に活用できる能力を育成
情報処理：
情報リテラシーについて、知識と技能を学ぶ
統計学、医療統計学：
統計解析手法の理論と実践、医学や健康科学への応用を学ぶ
臨床データ解析入門、臨床データ解析実習：
臨床データや臨床研究の実例について講義と実習で学ぶ
医療薬理学：
医薬品情報、医療情報、EBM、疫学と臨床研究について学ぶ
病態解析学：
AIやビッグデータを利用した臨床研究の実例や実例について学ぶ
- 医療人教育のための科目の充実





富山流「くすりを創る」スペシャリストを育む 創薬科学科〈4年制〉

●創薬研究の基礎能力の育成

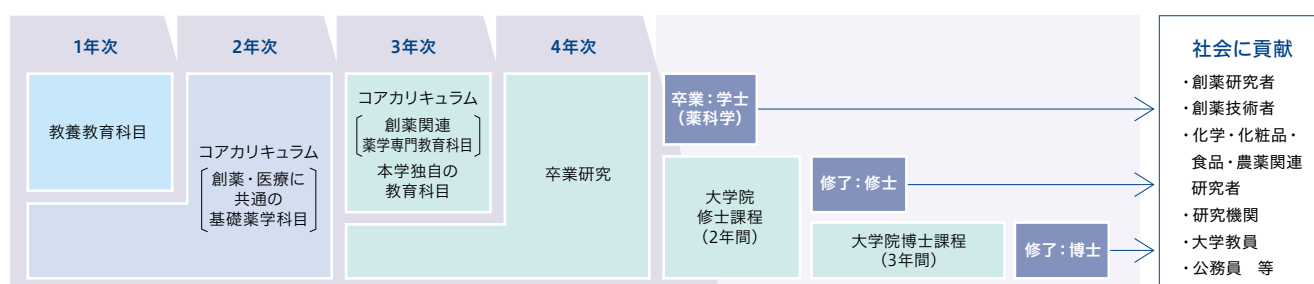
薬学の基礎となる自然科学（物理学、化学、生物学）と、薬理学や薬剤学などの創薬に関する専門的な知識および研究技術を身につけた創薬研究者を養成します。特に教養教育や本学独自のカリキュラム、医学部や附属病院との連携を通じて「くすり」を単なる物質として捉えるのではなく、大切な「いのち」を守るために創るという薬学の基本精神を学び、ヒューマニズムを醸成します。また、創薬研究に必要な英語能力の向上を目指し、TOEIC 学習のサポートをはじめとする英語教育が、全学年を通して行われます。

●創薬研究の実践能力の育成

2 年次までに医薬品の基礎と専門教育科目を集中して学びます。3 年次前期には引き続き専門教育科目を学びつつ、興味をもった研究分野の研究室に所属し（和漢医薬学総合研究所も選択可能、また医学部基礎系講座への所属も可能（若干名を予定））、少人数教育のもと、最先端の実験、研究の指導を受けます。2 年次後期には、先端創薬学コース、和漢医薬学コース、脳機能科学コースの 3 コースに分属し、地域企業や和漢医薬学総合研究所、医学部との連携により、より高度な専門的内容を学びます。創薬科学科を卒業すると、学士（薬科学）の学位が授与されます。

卒業後、大学院に進学し大学院修士課程（2 年間）、その後さらに博士課程（3 年間）において、主体的に研究を行うことで、先端的知識や技能・論理的思考力に秀でた実践的な研究者へと飛躍します。近年では企業等の研究職への就職希望の高まりから、大学院進学の割合が増加しています。大学院における学系間の連携により、薬学系だけでなく他学系の研究室への進学も可能です。

カリキュラム

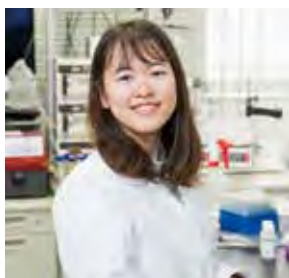


こんな人は創薬科学科へ

- 薬学関連の研究分野で国際的に活躍したい
- 新薬の研究に携わることで人類と社会に貢献したい
- 東西医薬学の融合による医薬品の創出を目指したい
- 疾患に関連する現象や物質に対して興味・関心が強い
- 生体メカニズムの解明やそのための新しい方法論の開拓に挑戦したい

創薬科学科を卒業すると 取得が有利になる資格

- ・毒物劇物取扱責任者
- ・甲種危険物取扱者受験資格
- ・食品衛生管理者
- ・食品衛生監視員受験資格



佐藤 莉緒

博士前期課程2年

創薬科学科では1、2年次で主に教養教育や薬に対する基礎的な知識を学び、3年次から有機化学や薬の薬理作用といった専門的な知識を重点的に身に付けていきます。また3年次からは研究室に配属され、自ら考え問題を解決する能力を会得していきます。

講義では、一般に販売されている薬のどの成分がどのように作用するのか、ワクチンがどうして病気を予防するのか、副作用の大きい薬はどのように改良されていくのかなど様々な事を学ぶことができます。私は入学前まで痛み止めをなんとなく使ったり、言われるがままワクチンを打ったりしていたのですが、講義を受けるにつれ薬に含まれる成分の役割が少しずつ理解できるようになり勉強が力になっていることを実感できました。その他にも「薬都とやま」ならではの貴重な講義もあります。富山大学出身であり現在社会で活躍しているOB・OGの方々からお話を伺ったり、富山県薬事総合研究開発センターを訪問してどのような機械でどのように製剤しているのかを実際に見学したりする機会もあります。

研究室配属では、数多くある研究室のうち1つに配属されます。研究室は薬を効率的に合成する方法を探索する研究室や、完成した薬に添加剤を加えて体内の目的の場所まで届かせるようにする研究室、漢方のような東洋医学の研究室など多岐にわたります。自分の興味のある分野の力を伸ばしていくことで、社会に役立つ能力を楽しく習得できるようになります。

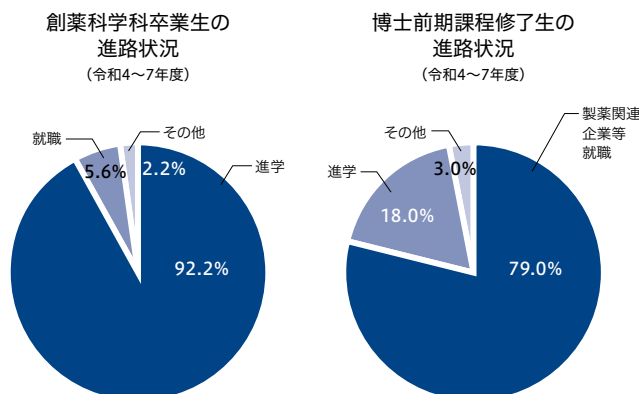
創薬科学科は4年で卒業ですが、製薬業界や研究開発への就職を考えて多くが大学院に進学します。他学部と比べカリキュラムが詰まっており大変に感じることも多いですが、その分学べる機会というのは非常に多いです。研究室に配属された後は、研究室の先生や先輩方への報連相や自分で実験結果をもとに次にご生かすかなど、社会に出るうえで重要な力も身に付けることができます。

私たちと一緒に杉谷キャンパスで学生生活を送ってみませんか？

卒業生の進路

就職率は毎年ほぼ100%です（進学を除く）。令和4～7年度において、創薬科学科卒業生のほとんどが大学院に進学しています。また大学院博士前期課程※修了生の多くは、製薬関連企業に就職しています。

※大学院修士課程に相当



小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならない場合があります。

主な進路 (創薬科学科卒業生、博士前期課程修了生)

製薬関連企業

第一三共、中外製薬、シミックCMO富山、大塚製薬、協和キリン、エーザイ、日本化薬、キッセイ薬品工業、久光製薬、アステラス製薬、興和、救急薬品工業、十全化学、ダイト、池田模範堂、陽進堂、リードケミカル、富士フイルム富山化学、日東メディック 等

進学

富山大学大学院、九州大学大学院、東京大学大学院、大阪大学大学院 等

Q&A

大学院へ進学した方が良いですか？

△近年、製薬企業の研究職などでは即戦力を必要とするようになり、大学院で専門的な研鑽を積んだ学生を採用するようになりました。研究職のみならず、薬学関連分野で重要な役割を担った仕事で活躍したい方には、大学院への進学をお勧めしています。

創薬科学科を卒業しても薬剤師になれますか？

△創薬科学科の卒業生には薬剤師国家試験の受験資格が与えられません。薬剤師免許の取得を目指す方は6年制の薬学科を受験してください。



富山流「くすりを使う」スペシャリストを育む 薬学科〈6年制〉

●将来の医療を担う人材の育成

教養教育を含む幅広い領域をカバーしたカリキュラムを通じて、コミュニケーション能力の向上や医療人として必要な豊かな人間性の醸成、高い倫理観の啓発に努めています。また、今後の医療の国際化にも目を向け、アメリカの南カリフォルニア大学との学術交流等を通じて、英語を話せる国際感覚豊かな薬剤師の育成にも取り組んでいます。また、医学部との連携により、臨床現場で必要な能力の基本やチーム医療の大切さを学びます。和漢医薬学総合研究所との連携も行っており、生薬、漢方薬の基礎と実践、東西医薬の統合の重要性について学びます。さらに、県内企業において、統括製造販売責任者等（薬剤師）の業務を見聞することで、将来幅広い分野で活躍できる薬剤師を育成します。

●研究能力の育成

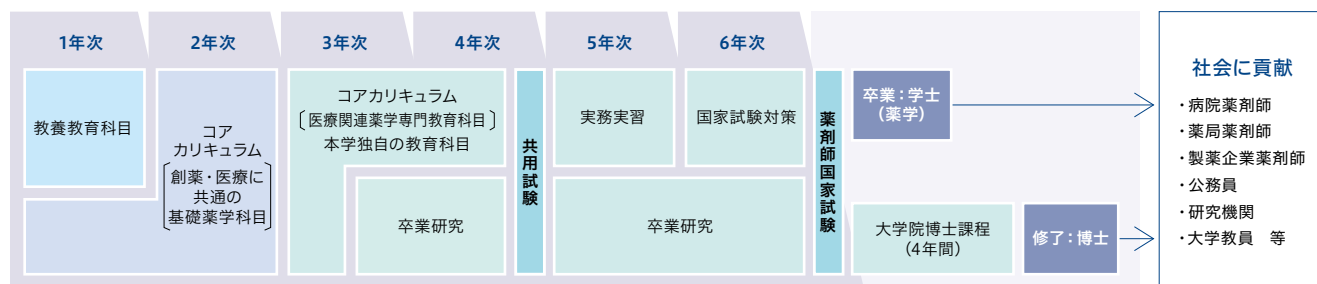
医療データサイエンス教育を通じて、ITやAIを活用し、医療ビッグデータを適切に取り扱い、有効に活用できる能力を育成します。

3年次後期から興味を持った研究分野の研究室に所属し、卒業研究を開始します。研究能力を臨床現場で活用できる薬剤師の養成、創薬研究を薬剤師の立場から推進・指導できる人材の輩出を目指しています。

4年次に共用試験を受験、合格後、5年次からの実務実習に参加します。薬学科を卒業すると学士（薬学）の学位が授与され、薬剤師国家試験の受験資格が得られます。卒業後、さらに大学院に進学し、最先端の臨床薬学や統合医療を学ぶこともできます。

総合型選抜（研究者養成枠）の入学者は薬学研究コースに属し、企業インターンシップ科目等の優先履修、卒業研究を実施する希望研究室への優先配属など、薬学研究を志す上で必要なフォローアップを受けられます。総合型選抜（地域枠）の入学者は地域創生コース（仮称）に属し、富山県内病院・行政等の見学ローテーション、県内製薬企業へのインターンシップなど、地域の医療人として活躍する薬剤師養成のための「地域創生型カリキュラム」が用意されています。

カリキュラム



こんな人は薬学科へ

- 薬剤師としての高度な学識と職能を得たい
- 医薬品の研究や臨床開発に携わることで人類と社会に貢献したい
- 東西医薬学の融合による統合医療を実践したい
- 医療や保健衛生の分野で社会に貢献したい

薬学科を卒業すると取得できる資格

・薬剤師国家試験受験資格

薬学科を卒業すると取得が有利になる資格

- ・毒物劇物取扱責任者
- ・甲種危険物取扱者受験資格
- ・食品衛生管理者
- ・食品衛生監視員受験資格



池村 泉美

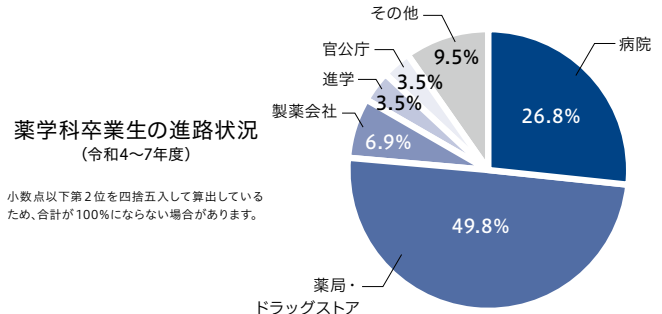
薬学科6年

富山県は、「くすりの富山」として、約300年の歴史を持っています。このような歴史ある土地に位置する富山大学薬学部は、伝統に根ざした和漢医薬学から最先端の薬学まで幅広く学ぶことができることが特徴として挙げられます。具体的には、和漢薬について学べる講義や実習が充実しています。特に、生薬を実際に見たり触ったりする講義や漢方薬を煎じて匂いや味を確かめたりする実習は印象に残っています。また、杉谷キャンパスには薬用植物園があり、珍しい植物などを見学することができます。加えて、杉谷キャンパスは、学部の垣根を越えた医薬系の交流がある点も大きな特徴として挙げられます。医学科・看護学科の学生との合同授業や医学部の先生の講義もあり、医療人としての知識や視点を学ぶことができます。

1年次は教養科目が中心ですが、2年次以降は専門科目が本格的に始まります。3年次以降は、研究室配属や調剤薬局・病院での実務実習があります。それまでに身につけた知識を生かしつつ、実際の医療現場で実践的に学ぶことができます。低学年では、座学が中心で知識の修得が重要になりますが、高学年になると知識を利用して自発的に問題解決する力が重要になります。薬剤師に求められる力は多岐にわたり、求められる知識も膨大です。そのため、大学時における学びは重要になります。貴重な経験を通して多くの知識を学ぶことができる本学部の学習環境は、理想の薬剤師を目指す上で、充実したものだと感じています。

卒業生の進路

就職率は毎年ほぼ100%です（進学を除く）。令和4～7年度において、薬学科卒業生の多くは、病院薬剤師、薬局薬剤師として就職しています。官公庁や製薬関連企業に就職する卒業生もいます。



主な進路

病院

富山大学附属病院、厚生連高岡病院、富山赤十字病院、富山県済生会高岡病院、富山市民病院、射水市民病院、金沢大学附属病院、自治医科大学附属病院、新潟大学医歯学総合病院、藤田医科大学病院、豊橋市民病院、弘前大学医学部附属病院、山口大学医学部附属病院 等

製薬関連企業

田辺三菱製薬、千寿製薬、杏林製薬、ツムラ、第一三共、協和キリン、中外製薬、マルホ、鳥居薬品 等

薬局・薬店

日本調剤、スギ薬局、サンドラッグ、ウエルシア薬局、アインホールディングス、チューリップ調剤、イオンリテール、クラフト、クスリのアオキ 等

官公庁

各都道府県庁（薬剤師） 等

Q&A

共用試験とはどんな試験ですか？

A 実務実習では、薬剤師免許を持たない学生が調剤や服薬指導を行います。そのため患者さんの安全や権利などを確保する必要があります。共用試験は薬学生が実務実習を行うために必要かつ十分な基礎的知識や技能・態度を備えているかどうかを評価し保証するもので、全国の大学が共通の試験を行っています。この試験に合格しなければ、実務実習に参加できません。CBT(コンピュータを用いた学科試験)とOSCE(技能や患者に対する態度を客観的に評価する実地試験)の2種類の試験があります。

薬学科を卒業して創薬研究者になれますか？

A 薬剤師であるからこそ、理解できることもあるでしょう。くすりを使う薬剤師の立場・視点で、くすりを創ることは、とても重要で有益なことです。6年制薬学部を卒業した薬剤師も博士課程に進学し、研究者を目指しています。

富山流「くすりのスペシャリスト」 育成カリキュラム

全国の薬学部において共通して履修する「コアカリキュラム」はもちろん、くすりを「知る」、「創る」、「使う」視点に立った本学独自の教育科目、さらには「医と薬の融合」、「東洋と西洋の知の融合」、「伝統と最先端の融合」の三大潮流をくむ本学ならではの講義を展開しています。



医と薬の融合

医療学入門

医学部（医学科、看護学科）の学生との混成グループによる講義と体験実習を通じて、医療人としての倫理観とコミュニケーション能力の体得を目指します。

免疫・微生物学、生理学、人体機能形態学、疾病医療学

医学部の教員による講義が受講できます。

教養教育科目

社会活動や専門教育科目の理解に必要な基礎知識に加え、社会における医療の役割、重要性を学びます。
※教養教育は五福キャンパスで実施しています。

伝統と最先端の融合

富山のくすり学

富山のくすりの歴史と現状について理解し製剤の実例について学びます。

薬学経済

全国各地で活躍する本学の先輩方の講義です。社会に出てから現場で学んだことなど有用な情報がいっぱいです。

コアカリキュラム

全国共通の薬学専門教育科目

- ・薬剤師として求められる基本的な資質・能力
 - ・社会と薬学 ・基礎薬学 ・医療薬学
 - ・衛生薬学 ・臨床薬学 ・薬学研究
- の7項目に分類されています。

東洋と西洋の知の融合

和漢医薬学入門

天然薬物や漢方医学の基礎を学びます。

東洋医学概論

東洋医学と西洋医学の違いや共通点を再発見します。

Q&A

高等学校で生物を履修していませんが 授業についていけますか？

❖ 心配はいりません。高等学校で履修していなくても、十分についていけるよう配慮されています。一方で、生物に限らず、大学で学んでいくためには自発的な学習姿勢が必要です。わからないまま放置せず、積極的に質問するなどの努力も必要でしょう。

コアカリキュラムって？

❖ 薬剤師や薬学研究者などをを目指す学生に学んでほしい内容を整理し、厳選した全国共通の薬学専門教育のガイドラインです。本学では、コアカリキュラムの内容を次に挙げる科目で講義しています。
物理化学、分析化学、生物物理化学、構造生物学、生薬学、有機化学、合成化学、生化学、微生物学、免疫学、衛生薬学、物理薬剤学、医療薬剤学、薬物動態学、基礎薬理学、 など。



くすりを知る

総合薬学演習

10人程度のグループで興味ある医薬品を選び、その発見の歴史、合成法、薬理作用等を調べ、教員・学生の前で発表します。医薬品ひとつが出来上がるまでの道のりを学びます。

くすりを創る（創薬科学科）

早期体験実習

富山県内の製薬企業を訪問し、工場見学をします。実際の医薬品の製造工程を学ぶことができます。

創薬化学、製薬企業と創薬
創薬に必要な最新の専門知識と技術を学びます。

先端生命薬学

最新のライフサイエンスをベースに分子・細胞レベルでの生体と医薬品の関連を学びます。

くすりを使う（薬学科）

早期体験実習

富山県内の病院・調剤薬局での調剤業務を見学します。

病態薬物治療学、 疾病医療学など

臨床薬学系には必修の科目で、医薬品や疾患について、より深く学びます。

実務実習

本学附属病院を含む富山県内の病院や地域薬局で5.5か月の臨床薬学実習を行い、薬剤師の業務を学びます。

キャリアサポート

- 専門英語
- ニュージーランド語学研修
- 南カリフォルニア大学臨床薬剤師教育研修

富山大学薬学部では、国内だけでなく海外の薬剤師養成や薬剤師業務について学ぶため、希望者は提携校である南カリフォルニア大学での研修を行っています。

- 就職や将来に役立つ TOEIC サポート（創薬科学科）
- 独自の対策プログラムによる薬剤師国家試験サポート（薬学科）

薬剤師国家試験（令和8年3月）新卒者合格率

91.84%（全国平均 86.25%）



南カリフォルニア大学留学記

山下 息吹 博士課程2年

2025年7月、私はアメリカ・ロサンゼルスにある南カリフォルニア大学で開催されたサマープログラムに参加しました。本プログラムには9か国・26大学から約100名の学生が参加しており、各国の薬学教育や薬剤師制度について学ぶとともに、異なる文化的背景を持つ学生と英語で議論しながら課題に取り組む貴重な経験を得ることができました。

プログラムではまず、各国・各大学の薬学教育や薬剤師制度についてのポスター発表が行われました。薬学教育の年数や実務実習の期間、国家試験制度などは国によって大きく異なっており、日本との違いを実感しました。また、一部の国では西洋薬と東洋薬で薬剤師資格が分かれており、薬剤師の役割や専門性について新たな視点を得ることができました。各国の学生との意見交換を通して、日本の薬学教育や医療制度について改めて客観的に考える良い機会にもなりました。

的に考える良い機会にもなりました。

さらに、参加学生はグループに分かれ、最新の医薬品について調査・発表を行いました。発表では、3つの専門分野（Pharmaceutical Science, Clinical Pharmacy, Regulatory Science）の視点から医薬品を調べる必要があり、私は Pharmaceutical Scienceを担当しました。膨大な資料を読みながら医薬品の特徴を整理することは簡単ではありませんでしたが、日本で学んできた薬学知識を活かしながら取り組むことができました。

グループワークでは、専門的な内容を英語で正確に伝える難しさを感じる場面も多くありました。しかし、議論や準備を重ねる中で、英語は完璧さよりも「相手に伝えようとする姿勢」が大切であることを実感しました。最終的には、グループメンバーや南カリフォルニア大学の学生スタッフとも打ち解け、協力しながら一つの発表を完成させることができました。

また、学術的な活動だけでなく、ドジャースの試合観戦やロサンゼルス市内の観光など、現地の文

化に触れる機会も多くありました。多様な文化や価値観に直接触れたことで、自身の視野が大きく広がったと感じています。

今回の研修を通して、薬学を多角的に捉える視点と、英語を用いて協働する実践的な力を身につけることができました。その後、学会で英語による口頭発表を行う機会もあり、留学で得た経験が活かされていると感じています。今後も、本プログラムで得た学びを研究活動や将来のキャリアに活かし、国際的な視野を持って挑戦を続けていきたいと考えています。



夢広がる！キャンパスライフ

1年生の生活

薬学科1年 唐澤 直輝



薬学部 of 学生生活は勉強量が多いことや体力的にきついなど大変ではありますが、その分だけ充実した大学生活を送ることができます。富山大学では1年次に五福キャンパスで教養科目を中心に学びます。授業は8時45分に1限目が始まり、1コマ90分の講義が最大5コマまで組まれています。曜日によって差はあるものの、4～5コマの日が多く、入学当初は長時間の講義

に慣れず疲れを感じることもあります。しかし、数か月すれば学習リズムが整い、無理なく受講できるようになっていきます。薬学部では基礎科目の理解が後の専門科目に直結するため、早い段階から計画的に学習習慣を身につけることが重要です。また、レポートや小テストも多いため、日頃から復習を積み重ねる癖をつけておきましょう。

2限目終了後には1時間の昼休みがあり、多くの学生が学食で昼食をとります。学食は価格が手頃でメニューも豊富なため、学生生活を支える重要な存在です。授業後は部活動やサークルに参加する学生も多く、私が所属している部活では週2～3回、平日は21時頃まで活動しています。体力的には負担もありますが、仲間と過ごす時間は良い気分転換となり、学業とのメリハリをつくるうえでも役立っています。部活やサークルでは学年を超えたつながりが生まれやすく、大学生活を豊かにする貴重な機会となるため、いずれかに所属することを強くおすすめします。

大学には多様な背景や価値観をもつ学生が集まっており、日々の交流を通して新しい視点を得ることができます。積極的に人と関わり、コミュニケーションをとる経験は、将来の進路選択や社会での人間関係にも大いに役立ちます。薬学部の学びは決して楽ではありませんが、学業・人間関係・課外活動のいずれも自分次第で大きく広がるため、主体的に行動することで充実した大学生活を送っていきたいです。

日本全国から学生が集まっています。
たくさんの仲間との出会いが今後の人生
にもきっと役に立つはず。
大学での出会いが一生ものになります。



地域枠入学者として

薬学科1年 峯松 栞大



私は、総合型選抜地域枠で薬学部薬学科に入学しました。私は、富山大学薬学部に進学し、富山の地域医療を支える病院薬剤師として働きたいと考えていました。そのときに富山大学に薬学部地域枠が存在していることを知り、自分のやりたいことと一致していたため、受験することに決めました。総合型選抜では、学力試験だけ

ではなく、自己推薦書やプレゼンテーション、その後の質疑応答でも評価されます。私は、今まで大人数の前でプレゼンテーションをするという経験がありませんでした。そのため、大きな講堂でプレゼンテーションをする際に緊張しないように何回も繰り返し練習してきました。また、質疑応答でどんな質問をさせても対応できるように、薬剤師という職に対する知識も深めました。与えられたテーマに対して、自分の意見を持ち、それを他者に伝えるように言語化する力は大学在学中も卒業後も必要になってくるため、良い経験を積むことができたと思います。

地域枠生は、富山県と富山大学からの手厚いサポートのおかげで、学業に集中できる環境が整っています。地域創生型カリキュラムでは、地元ゆかりのある薬や漢方薬について学ぶことができます。また、実務実習では地域医療の「今」を学ぶ機会が多いことも魅力のひとつです。将来、産・官・学連携による地域への深い理解を得ることで、薬剤師として必要なコミュニケーション能力を磨くことができると考えています。私は、地域枠三期生として先輩や同期と協力をし、富山県の地域医療を支える病院薬剤師となるように努力していきます。

新入生医療学研修

創薬科学科1年 坂野 里咲



今年の新入生医療学研修では、医学科、看護学科、薬学科、創薬科学科の医療系4学科で合同のグループを組み、グループワーク、心肺蘇生講習、立山室堂周辺の散策を行いました。

立山室堂散策前日の天気予報は悪天候、前日夜まで室堂へ続く道路は雪が続いていたようです。しかし迎えた当日、運良く天気は回復しており、青い空と真っ白な山々のコントラストを見ることができました。愛知県出身の私には見慣れない雪に

大はしゃぎ、少し雪遊びをした後は、お弁当を食べました。グループみんなで慣れない土地で食べるお弁当は、いつもより美味しく感じられました。その後も雪の大谷に圧倒され、天然記念物のライチョウを直に見ることができ、富山の陸の自然を大いに楽しむことができました。帰りがけに食べた豚まんの味は忘れることができません。

今回の研修で、他学科との交流を通して、自分の意見をはっきり伝えることの重要性、また他者の様々な意見を聞くことで、一つの物事に対して視野を広げることの有用性を改めて学ぶことができました。チーム医療が推進される昨今、グループでの協働力は将来医療系に進む上で求められる力です。今回の経験を活かし、大学生活でさらに身につけられるよう頑張ろうと思いました。今後、4年あるいは6年間、各々が希望する職域は異なるとは思いますが、「患者さんのため」という共通の目標のため、最良の医療チームを作れるよう、他学科とのつながりを大切に頑張っていきます。



キャンパスカレンダー

4 入学式 オリエンテーション 前学期授業開始	5 新入生医療学研修 早期体験実習	6 新入生体験入学 前学期授業終了	7 夏季休業 南カリフォルニア大学 臨床薬剤師教育研修	9 前学期末試験
10 開学記念日 後学期授業開始 ソフトボール大会 医学薬学祭	11 卒業論文発表会 (薬学科6年生) 卓球大会 TOEIC講習会	12 総合薬学演習発表会 OSCE試験 パドミントン大会 冬季休業	1 博士論文発表会 後学期授業終了 TOEIC・IPテスト CBT試験	2 後学期末試験 卒業論文発表会 (創薬科学科4年生) 修士論文発表会 薬剤師国家試験
				3 ニュージーランド 語学研修 学位記授与式 春季休業

創薬科学科4年生の日常

博士前期課程2年 岩間 知輝



創薬科学科の4年次は、配属される各研究室で卒業研究に取り組みます。研究分野は研究室ごとに異なり、物理系、化学系、生物系から臨床系に渡る様々な分野において薬学に関する研究を行っています。私の所属している研究室では「有機合成化学」を専門としており、医薬品分子となる有機化合物やその類似骨格を効率的

に構築する新しい反応の開発や、薬理活性のある天然物の合成研究をしています。本格的に卒業研究が始まると私生活は研究中心の生活へと変わります。単位を取り終えるため授業はほとんど無く、研究に必要な文献調査や基礎知識を身につけながら研究を進めます。学んだ知識を実際に使うことで学問への深い理解と定着につながりました。

そんな日々の研究成果を発表する場として学会発表に行くことが出来ます。日本全国の研究者の前で自分の研究内容を発表し議論ができる貴重な機会です。逆に他の人の研究を聞いて知見を深められるという点でも非常に有意義な時間になります。

また、研究と両立してサークル活動や球技大会などのイベントも全力で取り組み、充実した学生生活を送ることが出来ます。

能動的に学び、実験し、議論する毎日はとても楽しく、自身の成長を日々感じることが出来ます。将来のやりたい理想像を目指して、日々努力を重ねていこうと思います。

薬学科5年生の日常

博士課程2年 山下 息吹



薬学科5年生になると、薬局と病院でそれぞれ11週間にわたる実務実習があります。人によって時期は異なりますが、薬局から病院の順に実習を行います。どちらの施設においても、薬剤師業務の基本である調剤をしっかりと経験することができました。これに加え、薬局では在宅医療や学校薬剤師業務、病院実習では医師などの他職種との連携や薬局ではあまり

経験できない無菌調製を学ぶことができました。5年生になるまでに薬学の基礎的な知識を学び、4年生のときにCBT・OSCEという2つの試験をパスして実務実習を行うのですが、現場では知識不足を痛感する日々でした。わからないことがある度、先輩薬剤師からご指導をいただくことで、知識を増やしていくことができました。実習で得た知識はとても印象に残っており、国家試験受験の際もその知識に助けられることが多くありました。

実務実習の期間が終了すると、卒業研究を再開することになります。文献調査、実験、先生との議論など研究活動に取り組んでいきます。学会への参加も可能であり、他の研究者との議論や様々な研究発表を聞くことで、自身の研究を深めることができます。

5年生は就職活動を本格的に始めるタイミングでもあります。携わりたい業務、自身の適性、実務実習での薬剤師業務の経験など様々な観点から自分を見つめ直し、進路を決定することになります。私自身も、卒業研究に取り組む中で研究に面白さを見出し、博士課程への進学を決めました。5年生は進路に関わるイベントが多くありますが、これらに全力で取り組んでいき、悔いのない選択をして欲しいと思います。

創薬科学科4年次前期の時間割(例)

	mon	tue	wed	thu	fri
1 8:45-10:15	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究
2 10:30-12:00					
3 13:00-14:30					薬学経済
4 14:45-16:15					卒業研究
5 16:30-18:00					

実務実習期間中(病院)の1週間のスケジュール

	mon	tue	wed	thu	fri
1 8:45-10:15	定期処方調剤	臨時 / 外来処方調剤			
2 10:30-12:00	定期処方調剤	臨時 / 外来処方調剤			
3 13:00-14:30	無菌調製	カンファレンス	無菌調製	カンファレンス	無菌調製
4 14:45-16:15	委員会見学	勉強会	処方解析	委員会見学	無菌調製
5 16:30-18:00	服薬指導	勉強会	服薬指導	勉強会	服薬指導

富山発「新しい薬学」への挑戦！

研究室生活

くすりを創るにも、くすりを使うにも、疑問に思い、考え、解決する能力は非常に重要です。富山大学薬学部では、創薬科学科、薬学科を問わず卒業研究に特に力を入れています。



創薬科学科では3年次から2年間、薬学科では3年次後期から3年半の間研究室に所属し、卒業研究を通じて薬学研究の最先端に触れることになります。多くの学生が卒業後さらに大学院で研究を続行しています。

いろんな「なぜ?どうして?」。

その答えを追いかけている時の「わくわく」。

分かった時の「やったー」。

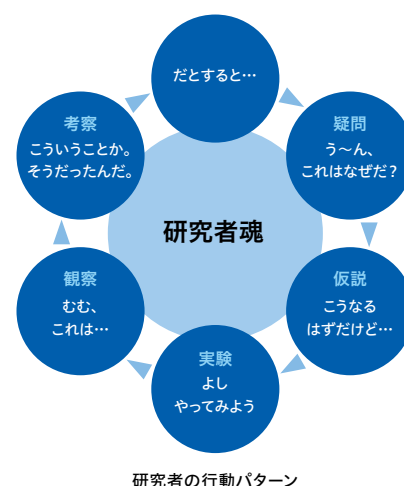
幼い頃持っていた小さな研究者魂が薬学研究という舞台でよびさまされることになります。

最先端を歩んでいるが故に、目の前で起こっていることは、どこの教科書にも書いてありません。必然的に試行錯誤の繰り返しが始まります。まったくの無から、一つの新しい知見にたどり着くために常に「なぜ?どうして?」

の問題点を気に留め、みずから仮説を立て、得られた実験結果から論理的な考察を行う、という作業を繰り返します。

教員は、学生が主体性を持って、自ら疑問を持ち、考え、答えにたどり着けるよう見守ることで研究者魂を育て、富山流「くすりのスペシャリスト」を養成します。

富山大学杉谷キャンパスの静かで落ち着いた研究環境が、研究者魂の育成をバックアップしてくれます。



Q&A

外国に留学して研究してみたいのですが？

A 外国の大学院に進学する人や、博士号を取得後、博士研究員として外国の大学あるいは研究所へ留学する人もいます。博士号取得後がもっとも一般的です。

学会で発表してみたいです。

A 研究成果が得られたら、4年生でも学会でどんどん発表しています。大学院生になると、国際学会に出席して、英語で発表する人もいます。みなさんにチャンスがあります。

研究室紹介

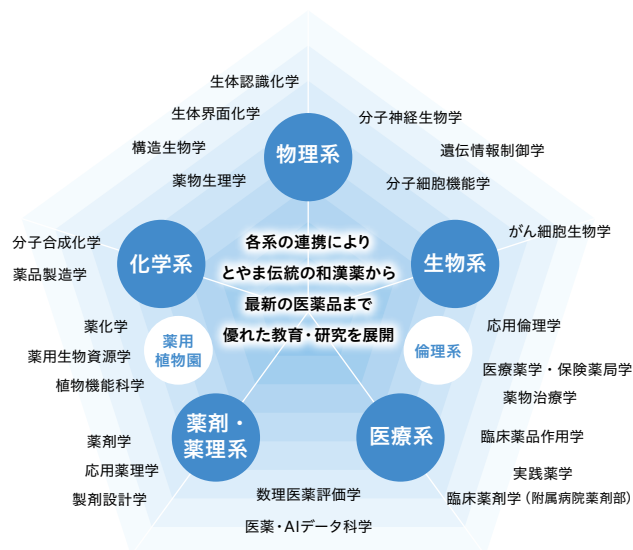
研究室には大きく5つの系があります。実際の研究内容は多岐にわたり、多角的にくすりにアプローチしています。研究室ごとにホームページを開設していますので、詳細は薬学部ホームページをご覧ください。研究室を紹介した動画もありますので併せてご覧ください。

医学薬学教育部（薬学系）
研究室一覧



<http://www.pha.u-toyama.ac.jp/research/laboratory/>

動画で観る薬学部
YAKUGAKU TV

北村 文乃

博士後期課程2年



私は、抗がん剤となりうる天然物の合成を達成することを目標に大学院に進学しました。日々、疑問・仮説・実験・考察を繰り返しながら研究を進めています。実験では予想しない結果が得られることも多いですがその分、目的の結果が得られた時には大きな喜びがあり、研究の面白さを感じます。また、研究室では論文紹介セミナーがあり、自身のテーマに関連した最新の論文を紹介しています。論文を理解し、発表する力が身につくだけでなく、幅広い知識を得ることで研究に対する理解を深めることができます。研究室での生活を通して、先生方や研究室のメンバーと研究に関して議論することで、研究者になるための考え方が育っていることを実感しています。

また、富山大学には多くの留学生が在籍しています。彼らとコミュニケーションをとる機会も多く、様々な国の文化を学ぶとともに、日常会話や研究に関する英語スキルを身につけることも可能です。さらに薬学部内に限らず、他学部との共同研究も盛んに行われており、分野を超えた研究を行うことができます。このような、異分野の研究者との交流により、自身の視野を広げることができる点も富山大学の強みであると感じています。

大小原 清貴

博士後期課程3年



私は富山大学創薬科学科を卒業後、大学院に進学しました。現在、所属している研究室で失明に繋がる網膜疾患の発症メカニズム解明を目指して、日々研究に取り組んでいます。研究では、ある疑問に対して自ら仮説を立て、その仮説を検証するために実験を行い、得られた実験結果から仮説の妥当性を考察するというサイクルを繰り返します。仮説通りの結果が得られることは多くありませんが、その中でも未だ見出されたことのない有益な知見が得られた時は、言葉では言い表せないほどの嬉しさや達成感を味わうことができ、私はそこに研究の魅力を感じています。

研究以外にも、仲間と楽しく充実した時間を送れることが研究室生活の魅力の一つです。私の研究室では、先輩による後輩への実験指導や学生間で実験に関する情報共有を積極的に行うとともに、実験時間外にも和やかな雰囲気の中、楽しくコミュニケーションを取ること、有意義な時間を過ごしています。年間を通して研究室対抗のスポーツ大会（ソフトボール大会やバドミントン大会）なども開催され、各研究室が一丸となって勝利を目指すことで、研究室メンバーとの絆を深めることができます。ぜひ皆様も富山大学にて、楽しく充実したキャンパスライフを送ってみてはいかがでしょうか。

こうして卒業研究で見出された新発見は富山発の「新しい薬学」として、世界に発信されています。

学術論文って何ですか？

A 学術論文とは、研究で得られた新しい事実や発見、実験結果をまとめたものです。そのほとんどは、国際的な科学雑誌（ネイチャーやサイエンスなどの名前を聞いたことがあると思います）に投稿されて、世界に向けて発表されます。また、学術論文（文献）を調べれば、世界でどんな研究が行われているかがわかります。学術論文のほとんどは英語で書かれていますので、英語能力は研究者に欠かすことのできないものです。

緑きらめく！ゆとりのキャンパス

富山流「くすりのスペシャリスト」を生み出す秘密は
実はキャンパスそのものにも隠されています。



1 富山大学五福キャンパス
1年次教養教育が実施されます。

2 富山大学附属病院
実務実習の現場となるなど、薬学部との連携が強いです。
郵便局やATM、カフェ、コンビニエンスストアもあります。

3 民族薬物資料館
世界の諸民族の伝統薬物や生薬標本などの研究資料を保存展示。
保存資料数は世界一。

4 富山薬専の門柱
約100年前から本学部を見つめています。



5



5



6



武道館

薬学部附属
薬用植物園

体育館
アリーナ

医薬
イノベーション
センター

講義実習棟

医薬学
図書館

医学部
医学科

共同利用
研究棟

和漢医薬学
総合研究所

薬学部
研究棟

富山薬専
の門柱

薬学研究
資料館

民族薬物
資料館

生命科学先端
研究支援ユニット

薬学部
研究棟II

みどり豊かな杉谷キャンパス。

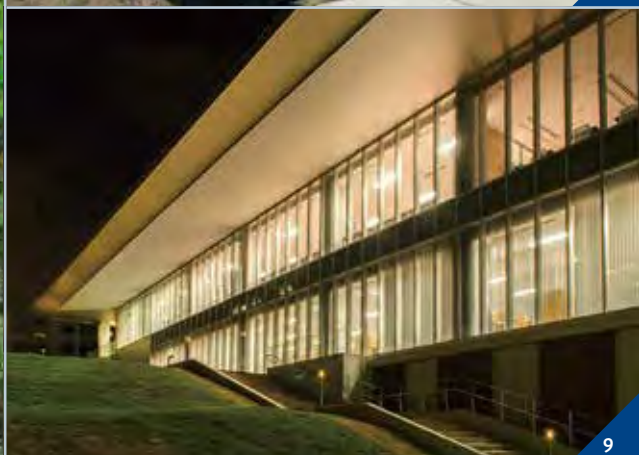
医薬系学生だけのキャンパスだからこそ、
素晴らしい繋がりががあります。



7



8



9

5 講義実習棟

バス停から歩いてきて、階段下から眺める校舎の姿は、海外の大学キャンパスかと見間違うような風景です。医学部との合同講義もあります。

6 薬学研究資料館

薬学部の歴史がここににあります。

7 学生食堂

明るく開放的な空間で、おいしくリーズナブルです。

8 薬学部附属薬用植物園

約2,000種類を所有し、その数は全国トップレベルです。研究の合間に緑の中で気分転換できます。

9 医薬学図書館

一年中、24時間利用可能。研究、勉学を完全サポート。医薬系の図書や、電子ジャーナルの整備が充実しています。

学生生活のサポート

～安心で快適なキャンパスライフのために～

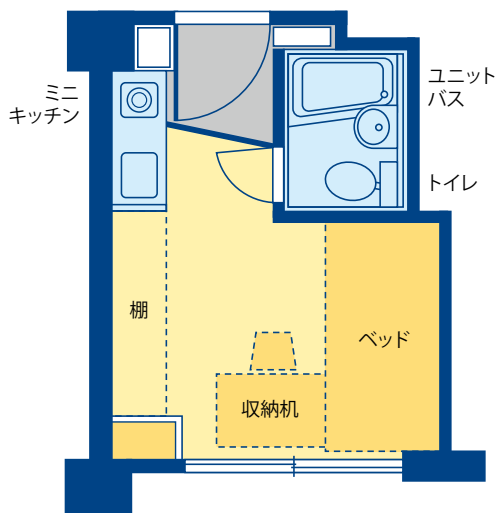
新樹寮



新樹寮は、自宅からの通学が困難な学生に対して、良好な生活と勉学の場を提供するため、学生の経済的支援の一環として運営されています。

新樹寮は、五福キャンパスと杉谷キャンパスのほぼ中間に位置し緑豊かな環境の中にあります。居住棟は、プライバシーを尊重した一人部屋となっており、各部屋には、生活に必要な設備が備えられ、光インターネット環境（有料）も整っていて寝具や食器などを持ち込めばすぐに生活が始められます。

【部屋の一例】



設備・備品等…机・椅子、ベッド、ミニキッチン、オープンレンジ、バス・トイレ（ユニットバス）、エアコン、冷蔵庫、カーテン

心と体をサポート

富山大学薬学部では、学生の心と体の健康をサポートする体制が整っています。

・学生相談室

人間関係や進路、生活トラブルなど、悩み相談を受け付けています。必要に応じて他部門と連携し、学生生活をサポートします。保護者の方からの相談も受け付けています。

・アクセシビリティ・コミュニケーション支援室

さまざまな障害や特性のある学生の大学生活をサポートするため、面談等の支援を行っています。また、社会的コミュニケーションに困難さを抱えるすべての学生を対象に、サポートを行っています。

・保健管理センター

医師・臨床心理士（カウンセラー）・看護師が常駐しています。毎年春の定期健診、応急措置、健康相談のほか、対人関係の悩みなどの心理カウンセリングも行っています。

Q&A

奨学金制度はありますか？

A 人物・学業ともに優れ、健康であり、経済的理由により修学困難な者を対象として日本学生支援機構や、地方公共団体、民間育英団体の奨学金制度があります。詳細は富山大学のパンフレットをご覧ください。

アルバイト事情は？

A 富山県は教育熱の高いところですので、塾講師や家庭教師のアルバイトの募集がたくさんあります。特に杉谷キャンパスの学生は人気が高いようです。



笑顔かがやく！ アフタースクール

勉強や研究の合間に、上手に気分転換をしています。

クラブ・サークル活動はほとんどが杉谷キャンパス内で

医薬両学部の学生のみで行われています。

大学生になって新しいことにチャレンジする人も多いようです。

〈体育系〉

ITFテコンドー部／アーチェリー部／ウインドサーフィン部／弓道部／競技スキー部／剣道部／硬式テニス部／ゴルフ部／サッカー部／山岳部／準硬式野球部／女子軟式野球部／女子バスケットボール部／女子バレーボール部／女子ハンドボール部／水泳部／ストリートダンス部／ソフトテニス部／武田流中村派合気道部／卓球部／男子バスケットボール部／男子バレーボール部／男子ハンドボール部／バドミントン部／養神館合気道部／ラグビー部／陸上競技部

〈文化系〉

ESS/peer☆yacha (ピア・エデュケーションサークル) / TULid / 医学薬学祭実行委員会 / 医薬classicサークル / ウインドアンサンブル / 管弦楽団 / ギターマンドリンクラブ / 救急医学勉強会 SALT / 軽音楽部 / コーラス部 / 国際医療研究会 / 茶道部 / 三曲会 / 写真部 / ジャズ研究部 / 緒鞭会 / 小児科訪問サークル・青い鳥 / 書道部 / 美術部

下村 星璃花

薬学科6年

管弦楽団は、医学部・薬学部の1～6年生の学生50人以上で活動している団体です。普段の活動は週2回で、演奏会に向けてクラシック音楽を練習しています。

団員は、音楽経験者はもちろんですが、大学から音楽を始めたり、経験者でも今までとは違う楽器に挑戦したりと、大学から新たなチャレンジをしている人がたくさんいます。練習では先輩、後輩の垣根を越えて、互いに意見し合いながら、楽しんで演奏をしています。

毎年6月には、1年の集大成となる定期演奏会を開催し、学内や地域の方に、私たちらしい演奏をお届けすることを目標に、練習に励んでいます。

もちろん活動は他にもあり、1年を通して充実できるよう、様々なイベントを企画しています。北陸の学生オーケストラ団体が集まる交歓芸術祭や、富山の市民オーケストラ団体の方と一緒に演奏するオーケストラフェスティバルなど、杉谷キャンパスだけでなく、他キャンパスや地域の方と、音楽を通して交流できることも特徴です。

また、音楽を楽しむだけが魅力ではありません。私がこの団に所属して1番良かったと感じているのは、学年、学部学科を超えた仲間と出会えたことです。この団で出会えた仲間は、部活動だけでなく、普段の勉強や研究でも励ましあう仲間となっていて、私にとって大学生活の大きな支えです。

西村 颯

薬学科6年

バドミントン部には、医学部・薬学部の学生が全部で90名以上所属しています。活動は週に3回で、バドミントンの色々な技の練習はもちろん、基礎体力作りや実践用のゲームなど様々な練習に取り組んでいます。経験者はもちろん、未経験者も多く所属しています。未経験者には1年生の時から先輩が優しく熱心に教えてくれるので、楽しみながらもメキメキと上達すること間違いありません。

大会が間近に迫った7月には、強化練というイベントがあります。強化練ではその名の通り、バドミントンも体力も強化できる特別メニューに、部員みんなで鼓舞し合いながら取り組んでいます。そして8月には医学科が西医体、看護学科が西コメ、薬学部が関薬という大会にそれぞれ出場し、1年間の練習の成果を発揮しています。昨年は薬学部が団体戦で優勝しました。その他にも、新歓ドライブやBBQ、金沢大学・福井大学との交流試合などいろいろな行事が盛りだくさんです。

私が思うこの部活の大きな魅力は、同学年の部員だけでなく先輩後輩との関わりが盛んであることです。バドミントン部に入って出会った仲間と、普段の練習や行事を通して数多くの素敵な思い出を作ることができます。私はこの部活に入って大学生活がより豊かなものになったと日々実感しています。

飯田 佑

薬学科5年

緒鞭会(しゃべんかい)は漢方勉強サークルです。普段は漢方を学ぶ勉強会を開催しており、半期ごとに和漢診療に関するさまざまなテーマを扱っています。また、顧問の先生の指導のもと、薬を煎じて飲んでみたり、昔ながらの方法で丸薬を作ったりと、実際に漢方薬に触れる機会も多いです。さらに、季節ごとにタケノコ掘りなどのイベントも数多くあり、「とやまのくすし」というイベントでは、外部講師の方の貴重なお話を聞くことができます。

緒鞭会は医学部・薬学部の学生が主体ですが、他のキャンパスの学生も多く参加しており、自由度が高いことが特徴です。また他の部活動・サークルと兼部することもできます。各年度の初めには新入生向けに入門講座という勉強会を開催しているので、漢方の基本知識や概要をわかりやすく学ぶことができます。

富山大学には全国でも数少ない「和漢診療科」という診療科・講座があり、漢方薬にとっても精通しています。緒鞭会はこのように漢方薬に触れる機会が多い大学ならではのサークルであり、漢方の知識をみんなで楽しく身につけられるように日々頑張っています。

富山流「くすりのスペシャリスト」へのインタビュー

富山流『くすりのスペシャリスト』である本学薬学部卒業生は、
いずれもそれぞれの職場でその「研究者魂」をいかんなく発揮し、高い評価を受けて活躍しています。

大学で学生と共に新薬開発を目指す

岐阜薬科大学薬学部 副学長兼教授 **五十里 彰**
(H6卒業・H8修士・H11博士)



私は富山で生まれ育ち、富山医科薬科大学（現在の富山大学）で学位を取得後、静岡県立大学薬学部の教員になりました。薬学部に入學した頃は、薬剤師の道しか知らず、製薬企業、大学、研究所、行政機関など、多くの活躍の場があることを知って進路に迷うこともありましたが、熱心にご指導いただいた先生方の姿を見て、研究を続けたいと思いと薬学教育に携わりたい思いが強くなり、大学教員としての道を選びました。

現在、私は岐阜薬科大学の生化学研究室で、がんの新しい治療標的の同定と治療薬の開発を目指して研究に取り組んでいます。大学では、すぐには役に立たないような基礎研究から医療現場に密着した臨床研究まで、幅広い研究を実施することが可能です。なかなか期待する結果が得られませんが、思いがけない発見に遭遇することがあります。このように探しているものとは別の価値あるものを見つける能力を“セレンディピティ”と呼びます。セレンディピティを高めるためには、幅広い知識と経験が必要なため、学生とともに日々勉強の毎日です。薬学を志す皆さんがこれからどのような職業を選ぶにしても、失敗を恐れず新しいことに挑戦し、多くの経験を積んで欲しいと思います。

再生医療・幹細胞技術を用いた脳科学への挑戦

藤田医科大学 精神・神経病態解明センター准教授 **石川 充**
(H18卒業・H20修士・H23博士)



私は富山大学薬学部・大学院博士課程で、分子生物学と脳神経科学の基礎研究を行ってきました。ちょうどその頃、人工多能性幹細胞（iPS細胞）技術が世界に報告されました。この新しい技術の登場は、「ヒトの神経細胞を用いて病気の仕組みに迫る」という未来を意識させ、私の研究への向き合い方に大きな影響を与えました。

その後、慶應義塾大学医学部の研究員として、難病の神経変性疾患の患者さんの細胞からiPS細胞を作成し、試験管内で脳神経系への分化誘導や病態再現、治療候補薬の探索を行ってきました。その候補薬のひとつは、第I/IIa相臨床試験を終え、第III相試験に進もうとしています（2026年時点）。

現在は、愛知県の藤田医科大学で、精神疾患研究に取り組んでおり、幹細胞を用いて病態解明や創薬・再生治療ができないかと日夜試行錯誤しています。また同時に、複雑な脳機能をシャーレ内で再現する新技術の開発に取り組むため、米国マサチューセッツ工科大学（MIT）の訪問研究員としても従事し、生物学にとどまらず、化学・物理・数学の知見を融合させる学際的な連携を続けています。

私は決して要領の良い学生ではなく、ことあるごとにつまづいてばかりでした。しかし、富山大学ではそのような私でも一人の研究者として尊重してもらい、多くの挑戦の機会と支援をいただきました。その経験が、今の自分を支える大きな原動力となっています。

製薬会社で臨床開発業務に携わる

MSD 株式会社 **高瀬 明子**
(H10卒業・H12修士)



私は、富山医科薬科大学（現・富山大学）の博士前期課程（修士）を修了後に臨床開発職で製薬会社に入社し、以来ずっとこの仕事に携わっています。臨床開発は、細胞や動物レベルでの非臨床試験から期待されるくすりなどの候補化合物の有効性や安全性が実際に人でも認められるかを臨床試験（治験）で確認する、医薬品／ワクチンの研究・開発の最終段階を担当します。仕事の内容は多岐にわたり、私の場合は、開発戦略の検討、第I相から第III相にわたる治験の計画立案や実施、治験実施医療機関との対応、申請資料作成、厚生労働省やPMDAによる審査の対応など、幅広く経験してまいりました。多くのメンバーから成るチームで「1日でも早く新薬を患者さんに届ける」というゴールに向かって日々取り組んでいます。自分が関わった新薬によって患者さんの救命に繋がることもあり、とても大きなやりがいを感じられる仕事です。

「くすりの富山」の地で薬学の基礎を学び、研究室生活を送り、競技スキー部で薬学・医学・看護の仲間と共に活動したことすべてが今の私の貴重な財産となっています。

審査する行政機関では

独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 再生医療製品等審査部 **栗林 亮佑**
(H15卒業・H17修士・H28博士)



私は、現在、バイオ医薬品の品質審査業務、バイオ後続品の承認審査業務に携わっています。

バイオ医薬品（例：抗体医薬品、抗体薬物複合体、二重特異性抗体）の品質審査では、製薬企業が提出する品質の結果が主な審査内容になります。品質の審査では、バイオ医薬品の作り方（製造方法）の確認から、製造された医薬品が予め設定された管理項目（規格）に適合するか、臨床現場での使用にあたって貯蔵方法（例：2～8℃で保存）や有効期間を検討する安定性について審査を行っています。近年では、細胞外小胞治療薬やマイクロバイオーム創薬等の新たなモダリティに関する品質のガイドラインや留意事項の作成に携わっております。

また、バイオ後続品の承認審査では、品質、非臨床、臨床での先行バイオ医薬品との比較等を通じて、先行バイオ医薬品に対する同等性／同質性が示されているかを審査しています。どの業務も国民の健康増進につながる仕事であるため、大変やりがいのある仕事であると感じています。

富山大学薬学部では基礎から臨床まで様々な薬学の世界を勉強・経験することができます。その中から、自分の興味のある進路・分野に挑戦し、自分自身の新たなフィールドを創っていきましょう。薬学部の卒業生はどのフィールドを選択せよ、自己研鑽が必要です。自分を高めていけるよう努力をしてほしいと思います。その積み重ねが、結果として、社会のため、ヒトのために貢献できることに繋がると、私は信じて仕事をしています。



企業研究者という選択肢

株式会社池田模範堂 研究開発部 薬理グループ

北井 克樹

(H30卒業・R2修士)

私は池田模範堂という富山の製薬企業で、研究開発職として勤務しています。会社名をご存じの方は少ないかもしれませんが、主力商品である虫刺され用かゆみ止めの名前を聞くと馴染み深い方も多いのではないのでしょうか。もちろん他にも様々な商品開発を行っており、私も含め研究所では日々試行錯誤を繰り返しています。

このような研究開発の仕事には多角的な視点が必要であり、薬学部で培ってきた幅広い知識が役立ちます。また、研究開発に必要な最新の知識や技術を得るために富山大学をはじめ、様々な大学と共同で研究を行うこともあります。

私自身は在学中に研究の面白さに気づき、多くの選択肢の中から企業研究者としての道を選択しました。大変なこともあります、毎日楽しんで仕事ができていると感じています。これから富山大学で学ぶ人たちが、自身の思い描く「なりたい姿」に向かって突き進んでくれることを願っています。



製薬企業の研究職として働く

日本新薬株式会社 定村 龍太

(H29卒業・H31修士・R5博士)

私は現在、日本新薬という製薬企業で研究職として働いています。日本新薬は、難病・希少疾患に重点的に取り組んでおり、より良い新薬を患者さんに届けることができるよう日々研究を行っています。私は、無数にある化合物の中から薬の候補を見出してくる創薬初期段階において、薬が投与されてから体内でどのように吸収され、どのように消えていくかを明らかにする薬物動態の研究に従事しています。動物に化合物を投与する実験や生体試料を用いた実験を実施し、そのデータを基に臨床での体内動態や薬効の予測、他の薬剤との併用時における影響のリスク評価を行っています。そして、プロジェクトチームで議論や試行錯誤を繰り返しながら開発化合物が標的疾患の医薬品として有効かつ安全なものとなるよう取り組んでいます。

富山大学在学中には、学部時代に薬学の基礎を、大学院時代に研究者としての基礎を学びました。その中で「熱意を持ち目標に向かって物事に打ち込む」という経験が私を大きく成長させ、現在の研究者としての土台になっていると感じています。これから富山大学で学ぶ皆さんが、興味のあることを見つけて取り組み、充実した大学生活となることを願っています。



製薬企業の製造技術者として働く

アステラス製薬株式会社 BioPharma Manufacturing

山村 朋弘

(H29卒業・H31(R1) 修士)

私は製薬企業の医薬品製造職として、微生物発酵由来の医薬品製造に従事しています。製造は出発原料である生産菌のセルバンクをフラスコに植菌するところから始まり、最終的には工業スケールの大型培養タンクにスケールアップしていきます。その後、培養液中の有効成分を精製し、高品質な医薬品に仕上げています。

微生物発酵による製造は、微生物という生き物を相手にしている為、同じ作業を実施したとしても毎回収量や不純物量が変動するため、高品質の医薬品を安定に製造することは簡単ではありません。そのため、悩まされることも多いですが、そこが製造の面白さでもあります。日々出てくるデータと過去のデータを比較し、より良い医薬品を製造することを常に考えながら業務を進めています。また、製造作業だけでなく、最新のGMP管理をするための文書整備や生産の効率化・向上を目指し関連部門と連携し実験スケールで検討を実施することもあります。微生物の培養がうまくいかなかったときには、私自身で過去の文献やデータの調査をし、原因解明と解決に向けて取り組みます。その結果、製造を無事に完了させたときには非常にやりがいを感じることができそうです。

また、自分自身が担当する製品が変わる際には、新たな微生物、製品との出会いにワクワクします。製品が変わると、菌種も製造方法も変わります。これまで自身が培ってきた培養や精製のノウハウを活かすことができる部分もありますが、製品ごとに課題があるため、一から勉強しなければならないことも多くあります。これは大変なことかもしれませんが、自身の成長につながる貴重な機会でもあります。

現職に就いてからは、学部・大学院時代に進めていた研究を全て活かしているわけではありません。しかし、私が学部・大学院で蓄積できた知識・経験・能力は、自分の基盤となっていて感じます。今後も富山大学で得たことを発揮し、高品質の医薬品を供給することで、世界中の人々の健康に貢献していきたいと思っています。



薬剤師として働く中で今思うこと

総合メディカル株式会社 薬剤師 今井 若菜

(R5卒業)

私は大学卒業後、薬局に就職しました。現在は複数の診療科がある医療モール内の薬局で勤務しています。毎日たくさんの患者さんが来局されますが、その中には何度も来てくださる顔なじみの方もいらっしゃいます。患者さんに近い存在として、頼っていただける薬剤師を目指して薬局を選んだので、それが実現できる環境にいられることがとてもうれしく、毎日充実しています。

薬剤師はただ薬を渡すだけという世間のイメージもあると思います。しかし、実際は患者さんの状況と薬の内容を吟味して、適正かどうか判断したり、困っていることはないかなど、積極的にコミュニケーションをとったりと、薬の知識はもちろん、傾聴力も必要です。幅広いスキルが求められるため、とてもやりがいのある仕事だと思っています。

「くすりの富山」で薬学を学んだ経験は大変貴重なものです。西洋医学はもちろんのこと、東洋医学で用いられる漢方についてこれほどまで深く学べる大学は珍しいと思います。実際に臨床現場でも、漢方を用いた治療はよく見かけるため、大学で学んだ知識を活かしながら働くことができています。

富山大学には、薬剤師が求められる幅広い知識とスキルが学べる環境が用意されています。本学で学び、薬剤師として活躍されることを心から応援しています。



薬剤師としてできることを

自治医科大学附属病院 繁昌 志帆

(R5卒業)

私は大学卒業後、地元である栃木県に戻り、総合病院に就職しました。内服薬、注射薬、院内製剤および抗がん剤チームでの経験を経て、現在は病棟担当薬剤師として業務を行っています。内分泌代謝科、アレルギー・リウマチ科、皮膚科そして総合診療内科が担当病棟を請け負っており、日々様々な病態の患者様と接しています。

ひとくちに治療といっても、手術や放射線、リハビリテーションなど、方法は疾患により多岐に渡ります。私たち薬剤師が関わることでできる薬物治療は、その中の一部に過ぎません。医師の作る治療の流れに乗り、薬剤師としてどのような貢献ができるか、試行錯誤の毎日ですし、自らの課題であると感じます。病院では身近に医師や看護師といった他職種が居り、またカルテの閲覧が可能です。治療方針や患者背景などを把握しやすく、介入の幅を広げることができるという点が病院薬剤師の強みだと私は考えています。

富山大学杉谷キャンパスには薬学部の他、医学科や看護学科が併設されており、部活動などを通じた交流があります。同じ医療を学んでいても、捉え方や着眼点が異なり、在学中とても刺激を受けました。大学で培った交友関係は卒業後も続いており、私の貴重な財産となっています。また各分野に精通した先生方から講義を受けることができるため、より深い学びが得られます。薬学実習では、学んだ知識を実践という形でアウトプットする機会もあります。

富山大学での生活は、様々な場面でいまの私に活きています。みなさんにもそれを実感していただければ嬉しく思います。

アクセス



●詳しくはホームページでご確認ください。

【東京から】・羽田空港から富山空港へ(約1時間)
・北陸新幹線でJR富山駅へ(約2時間10分)

【大阪から】・JR大阪駅からJR敦賀駅へ
北陸新幹線に乗り換え(約3時間)
・名神高速道路～北陸自動車道～富山I.C.

【名古屋から】・JR名古屋駅からJR敦賀駅へ
北陸新幹線に乗り換え(約3時間20分)
・名神高速道路～東海北陸自動車道～
北陸自動車道～富山I.C.

【北海道から】・札幌・新千歳空港から富山空港へ
(約1時間30分)

五福キャンパス & 杉谷キャンパス



【富山駅前から五福キャンパスへ】
・市内電車:「富山大学前」行き、「富山大学前」下車(約15分)
・路線バス:「富山大学前経由」(4番乗り場),
「富山大学前」下車(約20分)

【富山駅前から杉谷キャンパスへ】
・路線バス:「富山大学附属病院循環」(4番乗り場),
「富山大学附属病院」下車(約30分)

※杉谷キャンパス内の外来専用駐車場が手狭なため
ご来学にあたっては、なるべく公共の交通機関等
をご利用くださいますようお願いいたします。

※杉谷キャンパス：医学部、薬学部、
富山大学附属病院、和漢医薬学総合研究所

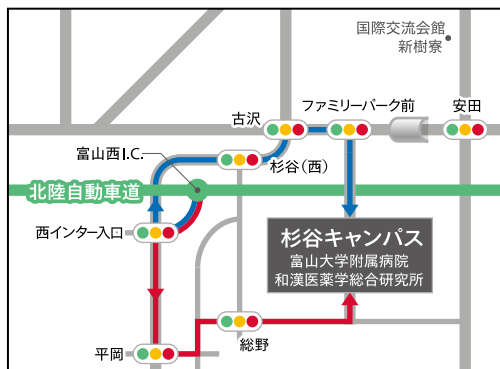
※五福キャンパス：人文学部、教育学部、経済学部、
理学部、工学部、都市デザイン学部

※高岡キャンパス：芸術文化学部

※五艘地区：富山大学教育学部附属学校園

※寺町地区：国際交流会館、新樹寮

富山西I.C.から杉谷キャンパスへ



Live & Learn in Toyama.

富山で学ぶ。富山大学で学ぶ。

表紙写真:「庄川から見上げる薬師岳」

撮影:イナガキヤスト



薬学部ウェブサイト:

<http://www.pha.u-toyama.ac.jp>



富山大学 薬学部

〒930-0194 富山県富山市杉谷2630

Tel. 076-434-7138

E-mail: nyuushi@adm.u-toyama.ac.jp

※掲載情報は2026年4月現在のものです。

最新情報はWebサイトにてご確認ください。

2026.04

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。